

IV. 学会発表に関する一覧

学会発表に関する一覧

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
Tasaka M, Sakamoto N, Nakagawa M, Itsui Y, Nishimura-Sakurai Y, Chen C, Suda G, Mishima K, Yamamoto M, Onuki Y, <u>Watanabe M</u>	Suppression of interferon induction and response pathway by hepatitis C virus NS4B	Annual Meeting of American Association for the Study of Liver Diseases	サンフランシスコ	2008年11月2日
Hibi T, <u>Watanabe M</u> , Camez A, Khan M	A multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled study of adalimumab for the induction of clinical remission in Japanese patients with Crohn's disease	ACG 2008	オーランド	2008年10月3日-8日
Hibi T, <u>Watanabe M</u> , Camez A, Khan M	Efficacy and safety of adalimumab for the treatment of Japanese patients with moderately to severely active Crohn's disease: results from a randomized controlled trial	ACG 2008	オーランド	2008年10月6日
Mishima K, Sakamoto N, Sekine-Osajima Y, Nakagawa M, Tasaka M, Nishimura-Sakurai Y, Itsui Y, Wakita T, <u>Watanabe M</u>	Establishment and genetic analyses of cytopathogenic HCV-JFH1 mutants by plaque-forming assay	15th, International Symposium on Hepatitis C Virus and Related Viruses	米国 (サンアントニオ)	2008年10月6日
Okamoto R, Tsuchiya K, Nakamura T, Kanai T, <u>Watanabe M</u>	Dysregulated differentiation of intestinal epithelia in UC	3rd Japan-Korea IBD Symposium	韓国(ソウル)	2008年9月20日
<u>Watanabe M</u> , Matsumoto T, <u>Watanabe M</u> , Hibi T	For the establishment of surveillance of colitic cancer	3rd Japan-Korea IBD Symposium	韓国(ソウル)	2008年9月20日
Sakamoto N, Tasaka M, Nakagawa M, Itsui Y, <u>Watanabe M</u>	HCV nonstructural proteins responsible for impairing RIG-I/Cardif - induced interferon responses	13th US-Japan GI & Liver Meeting in 21st Century	東京	2008年6月13日
Kanai T, Totsuka T, Nemoto Y, Hibi T, <u>Watanabe M</u>	The destiny of colitogenic CD4+ T Cells - are they effector or memory?	13th US-Japan GI & Liver Meeting in 21st Century	東京	2008年6月13日
Onizawa M, Nagaishi T, Nemoto Y, Oshima S, Okamoto R, Totsuka T, Kanai T, Yagita H, <u>Watanabe M</u>	Neutralization of tumor necrosis factor suppresses the development of colitis-associated tumor in mice	DDW 2008	San Diego	2008年5月21日
Tomita T, Kanai T, Nemoto Y, Fujii T, Totsuka T, <u>Watanabe M</u>	Intestinal IL-7 is not essential for the persistence of IL-7-dependent chronic colitis	DDW 2008	San Diego	2008年5月21日
Fujii T, Tomita T, Kanai T, Nemoto Y, Totsuka T, <u>Watanabe M</u>	FTY720 suppresses the development of colitis in lymphoid-null mice by trapping colitogenic CD4+ T Cells in bone marrow	DDW 2008	San Diego	2008年5月20日
Tsuchiya K, Inoue K, Aragaki M, Okamoto R, Nakamura T, Kanai T, <u>Watanabe M</u>	Notch signaling suppresses the transcriptional activity of Hath1 Gene, resulting in the undifferentiated form of human intestinal epithelial cells	DDW 2008	San Diego	2008年5月20日
Totsuka T, Kanai T, Nemoto Y, Tomita T, <u>Watanabe M</u>	Colitogenic CD4+ T Cells convert to regulatory cells to suppress colitis in the process of the immunosenescence	DDW 2008	San Diego	2008年5月20日
Nemoto Y, Kanai T, Tohda S, Totsuka T, Okamoto R, Tsuchiya K, Fukuda T, Yagita H, <u>Watanabe M</u>	Negative feedback regulation of pathogenic CD4+ T Cells by increased granulopoiesis	DDW 2008	San Diego	2008年5月20日
<u>Watanabe M</u>	New member presentation	IOIBD Annual Meeting 2008	京都	2008年4月3日-6日

学会発表に関する一覧

永石宇司、鬼澤道夫、鈴木雅博、渡辺守	CEACAM1による腸管粘膜免疫の調節機構	第16回 浜名湖シンポジウム	浜松	2008年12月20日
渡辺 守	免疫調節剤	第31回 IBD Club Jr. 研究会	東京	2008年12月13日
後藤文男、程塚正則、太田裕子、望月菜穂子、酒井英樹、野坂俊壽、小林大輔、坂本直哉、渡辺 守	胆嚢直接浸潤を来し手術により根治し得たLymphoepithelioma-like hepatocellular Carcinoma (LELC) の1例	第302回 日本消化器病学会 関東支部例会	東京	2008年12月6日
渡辺 守	クリニカルセミナー6 生物製剤が炎症性腸疾患の臨床と基礎研究に与えたインパクト	第38回日本免疫学会総会・学術集会	京都	2008年12月3日
土屋輝一郎	全小腸生検マッピングによる部位別構造の分子機構解析	第46回小腸研究会	東京	2008年11月29日
土屋輝一郎、荒木昭博、鈴木伸治、岩崎美智子、渡辺 守	シンポジウムI 全小腸生検マッピングによる部位別構造の分子機構解析	第46回小腸研究会	東京	2008年11月29日
渡辺 守	生物学的製剤がIBD治療に与えたインパクト	徳島IBDフォーラム	徳島	2008年11月28日
土屋輝一郎、渡辺 守	GSK3 inhibitor restores the stability of Atoh1 protein, resulting in the differentiation of colon cancer cells	第67回日本癌学会学術総会	名古屋	2008年10月28日
藤井俊光、金井隆典、富田貴之、亀山佳織、藤原玉子、根本泰宏、戸塚輝治、渡辺 守	免疫調節剤FTY720による腸炎惹起性リンパ球の骨髄封じ込め効果の検討	第36回日本臨床免疫学会総会	東京	2008年10月18日
根本泰宏、金井隆典、渡辺 守	IL-7を標的とした腸炎惹起性メモリーT細胞の制御	JDDW 2008	東京	2008年10月3日
渡辺 守	消化器病学会特別企画6：消化器病学会ガイドライン最終報告-炎症性腸疾患- 厚生労働省研究班の見解-日本の炎症性腸疾患専門医を代表して-	JDDW 2008	東京	2008年10月1日
朝倉 均、渡辺 守	ランチョンセミナー5（消化器病学会） 治りにくい炎症性腸疾患を新しい視点で見直す-消化管での再生へのチャレンジ-	JDDW 2008	東京	2008年10月1日
成田知大、吉村 築、池邊佐和子、伊藤 剛、加納嘉人、鎌田和明、水谷知裕、大木史郎、相馬友子、草野史彦、酒井義法、田沢潤一、永山和宜、黒岩俊彦、渡辺 守	S状結腸癌に対する術後化学療法中に自己免疫性肝炎を急性発症した1例	第301回 日本消化器病学会 関東支部例会	東京	2008年9月6日
渡辺 守	炎症性腸疾患治療に生物学的製剤が与えたインパクト	第2回 GIフォーラム九州	福岡	2008年9月6日
渡辺 守	炎症性腸疾患治療に生物製剤が与えたインパクト	第20回 IBD Club in Hamamatsu	浜松	2008年7月12日
渡辺 守	炎症性腸疾患における粘膜免疫異常と上皮分化・再生障害の接点	第29回 日本炎症・再生医学会	東京	2008年7月9日
竹中健智、幾世橋佳、長堀正和、小野塚泉、玄 世鋒、植山真由美、鈴木雅博、中川美奈、岡本隆一、陳 正新、戸塚輝治、土屋輝一郎、永石宇司、鈴木伸治、中村哲也、荒木昭博、坂本直哉、渡辺 守	肝腫瘍性病変との鑑別を要した肝結核種の1種	第300回 日本消化器病学会関東支部例会	東京	2008年7月5日
河合富貴子、佐野智彦、倉田 仁、檀直彰、渡辺 守	集学的治療により長期生存が得られている直腸癌の1例	第300回 日本消化器病学会関東支部例会	東京	2008年7月5日
綾田 櫻、松本太一、浦牛原幸治、小野圭一、小島 茂、武田雄一、野内俊彦、渡辺 守	初発4年後に気腹で再発した腸壁嚢状気腫の1例	第300回 日本消化器病学会関東支部例会	東京	2008年7月5日
戸塚輝治、金井隆典、根本泰宏、富田貴之、渡辺 守	慢性大腸炎の発症と維持におけるIL-7の役割	第45回 日本消化器免疫学会総会	京都	2008年7月4日
根本泰宏、金井隆典、渡辺 守	骨髄における腸炎惹起性メモリーT細胞と顆粒球造血系のクロストーク	第45回 日本消化器免疫学会総会	京都	2008年7月3日
金井隆典	抗TNF α 抗体療法がもたらした基礎と臨床へのインパクト	第45回 日本消化器免疫学会総会	京都	2008年7月3日
長堀正和	炎症性腸疾患：いつ疑うか？いつ専門医へ紹介するか？	第1回 消化器疾患勉強会	東京	2008年6月25日
鬼澤道夫	抗TNF抗体療法による炎症性腸疾患合併大腸癌に及ぼす影響	第14回 多摩消化器先端医療勉強会	東京	2008年6月23日
秋山純子	腸管上皮の分化と増殖を制御する分子機構	第14回 多摩消化器先端医療勉強会	東京	2008年6月23日

学会発表に関する一覧

大岡真也	クローン病の腸管エコー、イタリアでの学び	第14回 多摩消化器先端医療勉強会	東京	2008年6月23日
渡辺 守	これからも消化器病研究をリードする(コメンテータ)	第14回 多摩消化器先端医療勉強会	東京	2008年6月23日
荒木昭博、吉岡篤史、鈴木伸治、岡田英理子、土屋輝一郎、渡辺 守	IBDにおける内視鏡診断(クローン病)	第86回 日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2008年6月23日
鈴木伸治、土屋輝一郎、大島 茂、吉岡篤史、吉岡早苗、金井隆典、渡辺 守、荒木昭博、岡田英理子	小腸静脈瘤治療のアプローチ	第86回 日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2008年6月23日
北村まり、谷口末樹、渡部尚子、古本洋平、鎮西亮子、浅野 徹、佐崎なほ子、志願寺義通、藤木和彦、堀内亮郎、真榮城剛、三田村圭太郎、鈴木伸治、渡辺 守	クリッピングで止血困難であり、食道拡張用バルーンにて圧迫止血に成功したマロリーワイス症候群の一例	第86回 日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2008年6月23日
渡辺 守	生物学的製剤が炎症性腸疾患治療に与えたインパクト	第10回IBD治療研究会	名古屋	2008年6月13日
戸塚輝治	慢性大腸炎の発症と維持におけるIL-7の役割	第32回 日本リンパ学会総会	東京	2008年6月6日
鈴木雅博、陳 正新、鈴木伸治、植山真由美、玄 世録、小野塚泉、井津井康浩、岡田英理子、岡本隆一、中川美奈、戸塚輝治、土屋輝一郎、永石宇司、中村哲也、長堀正和、荒木昭博、坂本直哉、金井隆典、渡辺 守	急性肝炎重症型を伴ったdrug-induced hypersensitivity syndrome の1例	第299回 日本消化器病学会 関東支部例会	前橋	2008年5月17日
三好理絵、池邊佐和子、加納嘉人、鎌田和明、伊藤祐子、大木史郎、相馬友子、草野史彦、酒井義法、田沢潤一、永山和宜、新田沙由梨、渡辺 守	5-FU/ロイコポリン併用療法により長期SDが得られたstage IV進行胃癌の1例	第299回 日本消化器病学会 関東支部例会	前橋	2008年5月17日
渡辺 守	炎症性腸疾患の病態を新しい側面から深く	第27回東京女子医科大学消化器病臨床フォーラム	東京	2008年5月14日
土屋輝一郎、岩崎美智子、渡辺 守	小腸構造理解を目指した小腸マッピングによる遺伝子発現解析	第94回 日本消化器病学会	福岡	2008年5月10日
金井隆典、渡辺 守	腸炎惹起性免疫記憶リンパ球の恒常的循環を遮断する炎症性腸疾患治療ストラテジー	第94回 日本消化器病学会	福岡	2008年5月9日
富田貴之、金井隆典、藤井俊光、根本泰宏、戸塚輝治、渡辺 守	腸炎惹起性T細胞のMyD88を介した直接的TLRシグナルの重要性	第94回 日本消化器病学会	福岡	2008年5月9日
藤井俊光、金井隆典、富田貴之、亀山佳織、藤原玉子、根本泰宏、戸塚輝治、渡辺 守	免疫調整剤TY720による腸炎惹起性リンパ球の骨髄封じ込め効果の検討	第94回 日本消化器病学会	福岡	2008年5月9日
戸塚輝治、金井隆典、根本泰宏、富田貴之、渡辺 守	腸炎惹起性メモリーCD4+ T細胞の加齢に伴う抑制性細胞へのコンバージョン	第94回 日本消化器病学会	福岡	2008年5月9日
富田貴之、金井隆典、藤井俊光、藤原玉子、亀山佳織、根本泰宏、戸塚輝治、渡辺 守	慢性腸炎発症・維持には腸管IL-7ではなく全身性IL-7が必須である	第94回 日本消化器病学会	福岡	2008年5月9日
岡本隆一、土屋輝一郎、渡辺 守	炎症性腸疾患におけるNotchシグナルを介した上皮再生機構	第94回 日本消化器病学会	福岡	2008年5月8日
根本泰宏、金井隆典、亀山佳織、藤原玉子、藤井俊光、富田貴之、岡本隆一、戸塚輝治、渡辺 守	腸炎骨髄に存在する腸炎惹起性CD4+メモリー細胞による自然免疫系へのフィードバック機構	第94回 日本消化器病学会	福岡	2008年5月8日
橋元慎一、上村修司、宇都浩文、沼田政嗣、森内昭博、藤田浩、長谷川将、山元隆文、楠谷真、井戸章雄、坪内博仁	Human Neutrophil Peptide (HNP)1-3の潰瘍性大腸炎における臨床的意義	第45回 日本消化器免疫学会総会	京都	2008年7月3日
上村修司、宇都浩文、坪内博仁	プロテオーム解析から同定した血中Human Neutrophil Peptide (HNP)1-3の消化管粘膜に及ぼす影響	第94回 日本消化器病学会総会	福岡	2008年5月8日
Hiroki Tanaka, Yoshiaki Arimura, Takashi Yabana, Akira Goto, Masayo Hosokawa, Kanna Nagaishi, Kentaro Yamashita, hiroyuki Yamamoto, Yashushi Sasaki, Yasuhisa Shinomura, Masaharu Isobe, Kohzoh Imai	Enhancing Epithelial Engraftment of Mesenchymal Stem Cells Ameliorates Rat Inflammatory Bowel Disease	The 3rd Japan-Korea IBD Symposium	Seoul	2008年9月20日

学会発表に関する一覧

Masayo Hosokawa, Yoshiaki Arimura, Michihiro Tanaka, Kanna Nagaishi, Kentaro Yamashita, Hiroyuki Yamamoto, Tomoko Sonoda, Masafumi Nomura, Satoshi Motoya, Kohzoh Imai, Yasuhisa Shinomura	Genetic Variants in Surfactant, Pulmonary-associated Protein D (SFTPD) and Japanese Susceptibility to Ulcerative colitis	The 3rd Japan-Korea IBD Symposium	Seoul	2008年9月20日
野口善令	診療ガイドラインの正しい使い方	第50回日本消化器病学会大会、消化器病学会特別企画6：消化器病学会ガイドライン最終報告－炎症性腸疾患－、基調講演	グランドプリンスホテル新高輪	2008年10月1日
小林健二	内外の炎症性腸疾患ガイドライン	第50回日本消化器病学会大会、消化器病学会特別企画6：消化器病学会ガイドライン最終報告－炎症性腸疾患－、基調講演	グランドプリンスホテル新高輪	2008年10月1日
上野文昭, 松井敏幸, 日比紀文	クローン病診療ガイドライン(案)の作成過程。	第50回日本消化器病学会大会、消化器病学会特別企画6：消化器病学会ガイドライン最終報告－炎症性腸疾患－	グランドプリンスホテル新高輪	2008年10月1日
上野文昭, 松本賢之, 井上詠, 伊藤裕章, 小林清典, 渡邊聡明, 小林健二, 鈴木康夫, 杉田昭	クローン病診療ガイドライン(案)の概要	第50回日本消化器病学会大会、消化器病学会特別企画6：消化器病学会ガイドライン最終報告－炎症性腸疾患－	グランドプリンスホテル新高輪	2008年10月1日
松井敏幸	評価委員会からの提言	第50回日本消化器病学会大会、消化器病学会特別企画6：消化器病学会ガイドライン最終報告－炎症性腸疾患－、追加発言	グランドプリンスホテル新高輪	2008年10月1日
渡辺守	厚生労働省研究班の見解	第50回日本消化器病学会大会、消化器病学会特別企画6：消化器病学会ガイドライン最終報告－炎症性腸疾患－、追加発言	グランドプリンスホテル新高輪	2008年10月1日
上野文昭	炎症性腸疾患ガイドラインの開発経過と問題点	第94回日本消化器病学会総会、パネルディスカッション3：消化器疾患診療ガイドラインの現状と問題点	福岡国際会議場	2008年5月8日
平井郁仁, 別府孝浩, 松井敏幸	Crohn病の小腸狭窄性病変に対する内視鏡的拡張術の治療成績	第63回日本大腸肛門病学会	東京	2008年10月17日-18日
平井郁仁, 高津典孝, 松井敏幸	Crohn病予後良好例の検討－15年以上の長期経過例に対する追跡調査の解析－	第94回日本消化器病学会総会	福岡	2008年5月8日-10日
松井敏幸	下部消化管	第4回日本消化管学会総会学術集会	大阪	2008年2月7日-8日
松井敏幸	炎症性大腸疾患-内科的治療の適応と外科的治療のタイミング-	第21回日本消化器内視鏡学会九州セミナー	福岡	2008年2月2日-3日
Sakuraba A, Iwakami Y, Hibi T	Granulocyte and monocyte adsorption apheresis therapy modulates monocyte derived dendritic cell function in patients with ulcerative colitis	16th United European Gastroenterology Week	Austria	2008年10月18日-22日
Ogata H, Kato J, Hirai F, Hida N, Matsui T, Matsumoto T, Hibi T	Oral administration of tacrolimus (FK506) enhances mucosal healing in refractory, moderate/severe ulcerative colitis	16th United European Gastroenterology Week	Austria	2008年10月18日-22日
Inoue N, Hisamatsu T, Takayama T, Kamada N, Okamoto S, Yamada T, Hosono O, Morimoto C, Hibi T	CD4+Tlymphocytes with high CD26 surface expression are involved in the pathogenesis of inflammatory bowel disease	16th United European Gastroenterology Week	Austria	2008年10月18日-22日
Hibi T, Watanabe M, Camez A, Khan M	Efficacy and Safety of Adalimumab for the Treatment of Japanese Patients with Moderately to Severely Active Crohn's Disease:Results from a Randomized Controlled Trial	Annual Scientific Meeting and Postgraduate Course the American College of Gastroenterology	Florida	2008年10月3日-8日
Nagahama K, Sugimoto K, Shimomura Y, Ogawa A, Andoh A, Kobayashi T, Kamada N, Hisamatsu T, Hibi T	Blumberg RS, and Mizoguchi A: Regulation of Colonic CD4+T Cell Activation By Modification of Carbohydrate Assembly	Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the AGA Institute	San Diego CA	2008年5月17日-22日

学会発表に関する一覧

Takada Y, Hisamatsu T, Kamada N, Saito R, Kobayashi T, Chinen H, Okamoto S, Hibi T	Intestinal macrophages recruited by MCP-1 negatively regulate intestinal inflammation via production of anti-inflammatory cytokine IL-10	Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the AGA Institute	San Diego CA	2008年5月17日-22日
Ichikawa H, Okamoto S, Kamada N, Kobayashi T, Takayama T, Hisamatsu T, Hibi T	Anti-inflammatory effects of Opc-6535; PDE4 may be a new therapeutic target in inflammatory bowel diseases	Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the AGA Institute	San Diego CA	2008年5月17日-22日
Inoue N, Hisamatsu T, Takayama T, Morimoto C, Hibi T	Mucosal CD4+ T lymphocytes with high CD26 surface expression are enriched for memory/effector cells and involved in the pathogenesis of inflammatory bowel disease	Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the AGA Institute	San Diego CA	2008年5月17日-22日
Okamoto S, Inoue N, Hisamatsu T, Ogata H, Suzuki Y, Matsumoto T, Hibi T	A lecithinized superoxide dismutase (PC-SOD) improves ulcerative colitis	Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the AGA Institute	San Diego CA	2008年5月17日-22日
安藤 徹、鎌田信彦、岡本晋、久松理一、 且比紀文	マクロファージにおけるIL-10を介した炎症制御機構—マクロファージサブセットによるIL-10の働きの違い	第38回日本免疫学会総会	京都	2008年12月3日
本田治樹、鎌田信彦、岡本晋、久松理一、 且比紀文	クローン病腸管におけるT L 1 A及びIL-23のT h 1/T h 17型免疫反応への寄与	第38回日本免疫学会総会	京都	2008年12月3日
Takayama T, Hisamatsu T, Kamada N, Chinen H, Kitazume M, Honda H, Ooshima Y, Saito R, Okamoto S, Kanai T, Hibi T	Intestinal NK cells produce large amount of IFN-γ via crosstalk with LP-MΦ in Crohn's disease	第38回日本免疫学会総会	京都	2008年12月3日
高田康裕、久松理一、鎌田信彦、北爪美奈、岡本晋、金井隆典、 且比紀文	MC P-1依存性腸管マクロファージサブセットの腸管免疫恒常性における役割	第38回日本免疫学会総会	京都	2008年12月3日
Kamada N, Hisamatsu T, Kobayashi T, Okamoto S, Hibi T	CD14陽性異常腸管マクロファージはIL-23/IFN-γの炎症性経路を介してクローン病慢性腸管炎症に寄与している	第38回日本免疫学会総会	京都	2008年12月3日
成瀬浩史、鎌田信彦、岡本晋、久松理一、 且比紀文	IL-10KOマウスにおけるマクロファージからのIL-12/IL-23過剰産生機序の解明	第38回日本免疫学会総会	京都	2008年12月2日
大嶋洋佑、鎌田信彦、岡本晋、久松理一、 且比紀文	クローン病腸管マクロファージによる腸内細菌認識異常とNOD2の関与	第38回日本免疫学会総会	京都	2008年12月2日
Kobayashi T, Okamoto S, Hisamatsu T, Kamada N, Chinen H, Kanai T, Ishobe K, Hibi T	IL-23は潰瘍性大腸炎とクローン病においてT h 1/T h 17バランスを異なった形で制御する	第38回日本免疫学会総会	京都	2008年12月1日
河村由紀、豊田実、川島麗、Vongsavanh Phongsisay、河村裕、小西文雄、斎藤幸夫、矢島知治、 且比紀文 、松本誉之、神奈木玲児、今井浩三、土肥多恵子	潰瘍性大腸炎および大腸癌におけるSda糖鎖合成酵素遺伝子のDNA異常メチル化による転写抑制	第67回日本癌学会学術総会	名古屋	2008年10月29日
林竜平、長谷川博俊、石井良幸、遠藤高志、岡林剛史、内田寛、飯田修史、長沼誠、 且比紀文 、北川雄光	クローン病における腹腔鏡下手術の適応と限界	第63回日本大腸肛門病学会	東京	2008年10月18日
長沼誠、久松理一、岡本晋、井上詠、金井隆典、緒方晴彦、岩男泰、 且比紀文	クローン病発症早期の活動性病変・術後再燃予防にInfliximabは有用か？	第63回日本大腸肛門病学会	東京	2008年10月17日
岡林剛史、長谷川博俊、石井良幸、遠藤高志、落合大樹、長沼誠、 且比紀文 、北川雄光	潰瘍性大腸炎慢性化症例に対する腹腔鏡下手術の適応と成績	第63回日本大腸肛門病学会	東京	2008年10月17日
久松理一、安藤 徹、 且比紀文	炎症性腸疾患におけるアミノ酸代謝モニタリングと診断への応用	第50回日本消化器病学会大会	東京	2008年10月3日
長沼誠、岡本晋、 且比紀文	Infliximabを用いたクローン病治療の新しい戦略	第50回日本消化器病学会大会	東京	2008年10月3日
長沼誠、細江直樹、 且比紀文	シングルバルーン小腸内視鏡を用いたクローン病術後再燃の評価	第76回日本消化器内視鏡学会	東京	2008年10月2日

学会発表に関する一覧

上野文昭、松井敏幸、且比紀文	クローン病診療ガイドライン(案)の作成過程	第50回日本消化器病学会大会	東京	2008年10月1日
久松理一、鎌田信彦、小林拓、岡本晋、井上詠、緒方晴彦、金井隆典、且比紀文	クローン病における腸管マクロファージの腸内細菌認識異常 -1 L-23を中心とした慢性炎症サイクル-	第45回日本消化器免疫学会	京都	2008年7月4日
高田康裕、久松理一、鎌田信彦、斎藤理子、高山哲朗、市川仁志、小林拓、知念寛、井上詠、岡本晋、且比紀文	MC P-1 依存性腸管マクロファージサブセットの腸管免疫恒常性における役割	第45回日本消化器免疫学会	京都	2008年7月3日
市川仁志、久松理一、岡本晋、長沼誠、高田康裕、高山哲朗、矢島知治、且比紀文、緒方晴彦、井上詠、岩男泰	重症潰瘍性大腸炎の治療方針における内視鏡スコアの有用性 -従来の内視鏡重症度分類との比較-	第86回日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2008年6月21日
長沼誠、細江直樹、中溝裕雅、柏木和弘、久松理一、岡本晋、且比紀文、今枝博之、緒方晴彦、井上詠、岩男泰	シングルバルーン小腸内視鏡を用いたクローン病術後再燃の評価	第86回日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2008年6月20日
長沼誠、小林拓、且比紀文	アデノシン受容体をターゲットとした炎症性腸疾患に対する治療法	第94回日本消化器病学会総会	福岡	2008年5月9日
矢島知治、長沼誠、且比紀文	6-MP/AZA服用中のIBD患者における赤血球中6-thioinosine nucleotides 濃度の測定	第94回日本消化器病学会総会	福岡	2008年5月8日
小池祐司、大熊潔、長沼誠、高山哲朗、高田康裕、市川仁志、江崎俊彦、矢島知治、井上詠、久松理一、岡本晋、緒方晴彦、岩男泰、且比紀文	潰瘍性大腸炎の治療戦略に関する体外式超音波を用いた消化管エコー検査の有用性の検討	第94回日本消化器病学会総会	福岡	2008年5月8日
Nata T, Fujiya M, Mizukami Y, Ueno N, Moriichi K, Okamoto K, Ashida T, Kohgo Y	microRNA 146 activates NFκB pathway and possibly modulates intestinal inflammation	2nd JUCC(The 2nd Japan & US Collaboration Conference in Gastroenterology)	東京	2008年11月20日
Moriichi K, Watari J, Kiron M, Das, Tanabe H, Sato R, Amen H, Zaky, Ueno N, Konno Y, Ishikawa C, Inaba Y, Ito T, Okamoto K, Maemoto A, Fujiya M, Ashida T, Kohgo Y	Effects of Helicobacter pylori Infection On Genetic Instability, Aberrant CpG Island Methylation Status and Cellular Phenotype in Intestinal Metaplasia of Barrett's Esophagus in Japanese Population: A Prospective Follow-Up Study After Eradication	DDW 2008 (AGA)	San Diego	2008年5月19日
Ueno N, Moriichi K, Ikuta K, Konno Y, Ishikawa C, Takahiro Ito, Sato R, Okamoto K, Tanabe H, Maemoto A, Sato K, Fujiya M, Watari J, Ashida T, Saitoh Y, Kohgo Y	Endoscopic auto fluorescence imaging is useful for detecting colonic small lesions of lymphoma resembling lymphoid hyperplasia	DDW 2008 (ASGE)	San Diego	2008年5月18日
藤谷幹浩、岡本耕太郎、蘆田知史、高後裕	「クローン病術後におけるインフリキシマップの効果」	第5回日本炎症性腸疾患研究会	東京	2009年2月7日
藤谷幹浩、高後裕	腸管上皮細胞膜トランスポーターOCTN2を介した新しい宿主-腸内細菌相互作用の解明	第46回小腸研究会	東京	2008年11月29日
岡本 耕太郎、蘆田 知史、高後 裕	クローン病術後症例におけるInfliximabの治療効果	第50回日本消化器病学会大会	東京	2008年10月3日
盛一健太郎、藤谷幹浩、上野伸展、金野陽高、石川千里、稲場勇平、伊藤貴博、岡本耕太郎、田邊裕貴、佐藤龍、渡 二郎、高後 裕	大腸病変診断における自家蛍光内視鏡の有用性について	第38回日本消化器がん検診学会	札幌	2008年7月12日
Hiroshi Aoki, Ryuichi Furukawa, Akihiro Yamada, Koji Sono, Aisaku Osamura, Kentaro Nakamura, Yasushi Yoshimatsu, Yukiko Tuda, Nobuo Hosoe, Nobuo Takada, Yasuo Suzuki	The modulation of the Leukocyte Sensitivity to PGN by Granulocyte and Monoocyte Apheresis	3rd Japan-Korea IBD symposium	Korea	2008年9月1日
Akihiro Yamada, Ryuichi Furukawa, Koji Sono, Aisaku Osamura, Kentaro Nakamura, Yasushi Yoshimatsu, Hiroshi Aoki, Yukiko Tsuda, Nobuo Hosoe, Nobuo Takada, Yasuo Suzuki, Koji Shirai, Ryuji Suzuki	BACTERIAL SUPER ANTIGENS AND TCRBV-BEARING T CELLS IN THE IMMUNOPATHOGENESIS OF ULCERATIVE COLITIS	3rd Japan-Korea IBD symposium	Korea	2008年9月1日

学会発表に関する一覧

Yasuo Suzuki, Hiroshi Aoki, Ryuichi Furukawa, Akihiro Yamada, Koji Sono, Aisaku Osamura, Kentaro Nakamura, Yasushi Yoshimatu, Yukiko Tuda, Nobuo Hosoe, Nobuo Takada, Yasuo Suzuki	The decreased TLR2 expression and elevated IL-8 production on peripheral leukocyte in patients with active ulcerative colitis: The modulation of the leukocytes sensitivity to PGN by granulocyte and monocyte Apheresis	AGA	USA	2008年5月21日
吉松安嗣, 鈴木康夫, 古川竜一, 山田哲弘, 曾野浩治, 長村愛作, 中村健太郎, 青木博, 津田裕紀子, 細江伸央, 高田伸夫, 白井厚治	若年クローン病患者に対するレミケード投与の検討	JDDW2008	東京	2008年10月3日
山田哲弘, 古川竜一, 曾野浩治, 長村愛作, 中村健太郎, 吉松安嗣, 青木博, 津田裕紀子, 細江伸央, 高田伸夫, 白井厚治, 村野武博, 鈴木康夫	潰瘍性大腸炎患者粘膜局所における Toll-like Receptor発現の検討	JDDW2008	東京	2008年10月3日
細江伸央, 鈴木康夫	炎症性腸疾患の食事療法 クローン病患者における中鎖脂肪酸の有効性の検討	第30回日本臨床栄養学会総会	東京	2008年10月2日
古川竜一, 鈴木康夫, 粕谷秀輔, 山田哲弘, 曾野浩治, 長村愛作, 中村健太郎, 青木博, 吉松安嗣, 津田裕紀子, 細江伸央, 高田伸夫, 白井厚治, 二本柳康弘, 大城充, 木下敬弘, 岡住慎一, 加藤良二, 蛭田啓之, 亀田典章	Crohn病に合併した回腸癌の1例	JDDW2008	東京	2008年10月2日
細江伸央, 中村健太郎, 鈴木康夫	潰瘍性大腸炎患者における13C 酪酸注腸呼吸試験の有用性	JDDW2008	東京	2008年10月2日
中村健太郎, 細江伸央, 鈴木康夫	潰瘍性大腸炎内視鏡検査施行時における13C 酪酸注腸呼吸試験の有用性	第86回日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2008年6月1日
三上貴生, 秋武玲子, 上野哲, 宮本心一, 千葉 勉	下痢・下血・発熱の原因がメサラジンの薬剤性アレルギーであった潰瘍性大腸炎の一例	日本消化器病学会近畿支部第90回例会	大阪	2009年2月14日
Watanabe Tomohiro, Asano Naoki, Chiba Tsutomu, Strober Warren	Muramyl Dipeptide Activation of NOD2 Inhibits Multiple Toll-like Receptor Pathways via Induction of IRF4	2008 日本免疫学会総会・学術集会	京都	2008年12月1日
遠藤裕子, 丸澤宏之, 木下和生, 高忠之, 藤井茂彦, 藤盛孝博, 千葉 勉	炎症性腸疾患からの大腸発癌過程におけるActivation-induced cytidine deaminase (AID)の役割	第67回日本癌学会学術総会・ワークショップ	名古屋	2008年10月28日
玉置将司, 三上 栄, 上野 哲, 秋武玲子, 仲瀬裕志, 千葉 勉	大腸全摘後に十二指腸炎および小腸炎をきたした潰瘍性大腸炎の1例	日本消化器病学会近畿支部第89回例会	大阪	2008年9月27日
渡邊智裕, 千葉 勉	NOD2の活性化を用いたクローン病の新たな免疫制御療法	第45回日本消化器免疫学会総会	京都	2008年7月3日
Tomohiro Watanabe, Naoki Asano, Tsutomu Chiba, Warren Strober	Muramyl Dipeptide Activation of Nucleotide Binding Oligomerization Domain 2 Protects Mice from Experimental Colitis	13th US-Japan GI&Liver Meeting in 21st Century	東京	2008年6月13日
Shuji Yamamoto, Hiroshi Nakase, Satoko Inoue, Sakae Mikami, Norimitsu Uza, Satoru Ueno, Tsutomu Chiba	Long-Term Outcome of Treatment with Tacrolimus Therapy in Patients with Ulcerative Colitis	Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the AGA Institute	San Diego	2008年5月17日
Takuya Yoshino, Hiroshi Nakase, Shuji Yamamoto, Yasuhiro Takeda, Katsuhiko Kasahara, Satoru Ueno, Norimitsu Uza, Sakae Mikami, Tsutomu Chiba	The Involvement of Cytomegalovirus in Patients with Intestinal Behcet's Disease	Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the AGA Institute	San Diego	2008年5月17日
武田康宏, 仲瀬裕志, 千葉 勉	IL-10は分子シャペロンHsp47の発現を抑制し、腸管炎症に伴う線維化を抑制する	第94回日本消化器病学会総会	福岡	2008年5月8日
Watanabe T, Matsumoto T, Watanabe M, Hibi T	For the establishment of surveillance of colitic cancer	3rd Japan-Korea IBD Symposium 'Highlight of IBD in Asia: From Research to Clinic'	Seoul, Korea	2008年9月20日
Watanabe T	Preoperative chemoradiotherapy for lower rectal cancer	3rd Colorectal Disease Symposium in Tokyo	Tokyo	2008年6月21日

学会発表に関する一覧

Konishi T, <u>Watanabe T</u> , Kishimoto J, Kotake K, Muto T, Nagawa H.	Prognosis and metastatic potential of colorectal carcinoids compared with adenocarcinomas: Results of nationwide registry over 15 years	44th Annual Meeting of the American Society of Clinical Oncology	Chicago, IL, USA	2008年6月2日
<u>Matsumoto T</u>	Leukocytapheresis as a therapeutic option for intractable inflammatory bowel disease. (Symposium)	12th World Apheresis Association and 7th International Society for Apheresis Congress	ブエノスアイレス	2009年3月18日
<u>Fukunaga K</u>	Activated blood cells' removal as a potential marker to predict clinical efficiency of Leukocytapheresis for IBD patient. (Symposium)	12th World Apheresis Association and 7th International Society for Apheresis Congress	ブエノスアイレス	2009年3月19日
Kamikozuru K, <u>Fukunaga K</u> , Hirota S, Yokoyama Y, Ohda Y, Hida N, Nakamura S, Miwa H and <u>Matsumoto T</u>	In patients with active ulcerative colitis, selective depletion of granulocytes and monocytes by extracorporeal adsorption impacts peripheral and mucosal level of CD4+ regulatory T-cells	The 16th United European Gastroenterology Week (UEGW2008)	ウィーン	2008年10月22日
Yokoyama Y, <u>Fukunaga K</u> , Kamikozuru K, Nakamura S, Miwa Hand <u>Matsumoto T</u>	Demonstration of low CD25 high+CD4+ and highCD28-CD4+ T-cell subsets in patients with ulcerative colitis	The 16th United European Gastroenterology Week (UEGW2008)	ウィーン	2008年10月22日
Ogata H, Kato J, Hirai F, Hida N, Matsui T, <u>Matsumoto T</u> and Hibi T	Oral administration of tacrolimus(FK506) enhances mucosal healing in refractory, moderate/severe ulcerative colitis	The 16th United European Gastroenterology Week (UEGW2008)	ウィーン	2008年10月21日
<u>Fukunaga K</u> , Yoshida K, Kamikozuru K, Miwa H and <u>Matsumoto T</u>	Expression of the peripheral CD25high+CD4+ regulatory T-cells define the immunological characteristics of IBD	The 16th United European Gastroenterology Week (UEGW2008)	ウィーン	2008年10月20日
Watanabe T, <u>Matsumoto T</u> , Mawatabe M and Hibi T	For the establishment of surveillance of colitic cancer	The 3rd Japan-Korea IBD symposium	ソウル	2008年9月20日
Chohno T, Ikeuchi H, Uchino M, Nakamura M, Matsuoka H, Tomita N, Hori K, Nakamura S. and <u>Matsumoto T</u>	Diffuse gastroduodenitis and pouchitis associated with ulcerative colitis	The 3rd Japan-Korea IBD symposium	ソウル	2008年9月20日
Kamikozuru, K., <u>Fukunaga, K.</u> , Yokoyama, Y., Nakamura, S. and <u>Matsumoto, T.</u>	Can we expect the recuperation of the UC patients by the investigating the regulatory T-cells?	The 3rd Japan-Korea IBD symposium	ソウル	2008年9月20日
Yokoyama Y, <u>Fukunaga K</u> , Ikeuchi H, Kamikozuru K, Tozawa K, Uchino M, Yoshida K, Hida N, Nakamura S, Miwa H and <u>Matsumoto T</u>	The Expression of CD25highCD4+ T-cells and CD28-CD4+ T-cells in ulcerative colitis	The 3rd Japan-Korea IBD symposium	ソウル	2008年9月20日
Kawai M, <u>Fukunaga K</u> , Yokoyama Y, Yoshida K, Hida N, Kamikozuru K, Tozawa K, Nakamura S, Miwa H and <u>Matsumoto T</u>	Infliximab is effective for acute massive lower gastrointestinal bleeding in crhon' s disease	The 3rd Japan-Korea IBD symposium	ソウル	2008年9月20日
<u>Matsumoto T</u> , <u>Fukunaga K</u> , Kamikozuru K, Tozawa K, Yokoyama Y, Kusaka T, Ohnishi K, Miwa H and Nakamura S	Cytapheresis as a nonpharmacological therapy for inflammatory bowel disease (Panel discussion)	Joint annual congress of the German society for transfusion medicine and immunohaematology (DGTI) and the interdisciplinary European society for haemapheresis and a haemotherapy (ESFH) in cooperation with the societe Francaise de transfusion sanguine (SFTS)	デュッセルドルフ	2008年9月19日
<u>Fukunaga K</u>	Ulserative colitis-AP consensus. (Symposium)	Asia pacific digestive week (APDW2008)	ニューデリー	2008年9月16日
Okamoto S, Inoue N, Hisamatsu T, Ogata H, Suzuki Y, <u>Matsumoto T.</u> and Hibi T	A lecitinized superoxide desmutase (PC-SOD) improves ulcerative colitis	Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the AGA Institute (DDW2008)	サンディエゴ	2008年5月21日
<u>Fukunaga K</u> , Ohnishi K, Hida N, Ohda Y, Tozawa K, Kamikozuru K, Nagase K, Nakamura S, Miwa H and <u>Matsumoto T</u>	Aprospective follow-up study to assess the long-term efficacy of leukocytapheresis in patients with steroid refractory ulcerative colitis	Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the AGA Institute (DDW2008)	サンディエゴ	2008年5月21日

学会発表に関する一覧

Hida N, Watanabe K, Oshitani N, Arakawa T and <u>Matsumoto T</u>	Fluorescence endoscopy for further workup of neoplastic lesions in ulcerative colitis using local 5-aminolaevulinic acid-induced photosensitization	Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the AGA Institute (DDW2008)	サンディエゴ	2008年5月20日
Satoshi Egawa, <u>Hideki Iijima</u> , Shinichiro Shinzaki, Sachiko Nakajima, Jumpei Kondo, Shuji Ishii, Yoshimi Kakiuchi, Tsutomu Nishida, Tatsuya Kanto, Masahiko Tsujii, Shingo Tsuji, Norio Hayashi	Upregulation of gene related to anergy in lymphocyte (GRAIL) is associated with remission of inflammatory bowel disease	The 2nd Japan & US Collaboration Conference in Gastroenterology	Tokyo	2008年11月20日
Satoshi Egawa, <u>Hideki Iijima</u> , Shinichiro Shinzaki, Sachiko Nakajima, Jumpei Kondo, Shuji Ishii, Toshiyuki Yoshio, Tsutomu Nishida, Yoshimi Kakiuchi, Tatsuya Kanto, Masahiko Tsujii, Shingo Tsuji, Norio Hayashi	Upregulation of E3 ubiquitin ligases related to T cell anergy in CD4+ T cells isolated from patients with ulcerative colitis in remission	DDW	San Diego	2008年5月20日
Jumpei Kondo, Shingo Tsuji, <u>Hideki Iijima</u> , Masahiko Tsujii, Tsutomu Nishida, Katsumi Yamamoto, Shusaku Tsutsui, Norio Hayashi, Osaka University Affiliated Hospitals Small Bowel Study Group	Indications And Diagnostic Yield Of Double Balloon Enteroscopy In A Tertiary Care Setting: An Analysis Of 527 Cases With Suspected Small Bowel Diseases	DDW	San Diego	2008年5月20日
<u>Hideki Iijima</u> , Shinichiro Shinzaki, Satoshi Egawa, Sachiko Nakajima, Jumpei Kondo, Shuji Ishii, Yoshimi Kakiuchi, Tsutomu Nishida, Tatsuya Kanto, Masahiko Tsujii, Takatoshi Nakagawa, Akihiro Kondo, Eiji Miyoshi, Shingo Tsuji, Norio Hayashi	Agalactosyl IgG observed in inflammatory bowel disease is associated with enhancement of antibody-dependent phagocytosis in human monocytic cell line	DDW	San Diego	2008年5月20日
Sachiko Nakajima, <u>Hideki Iijima</u> , Shinichiro Shinzaki, Satoshi Egawa, Jumpei Kondo, Shuji Ishii, Yoshimi Kakiuchi, Tsutomu Nishida, Masahiko Tsujii, Shingo Tsuji, Norio Hayashi	Bone mineral density and biochemical markers of bone turnover in patients with inflammatory bowel disease	DDW	San Diego	2008年5月19日
Shinichiro Shinzaki, <u>Hideki Iijima</u> , Takatoshi Nakagawa, Satoshi Egawa, Sachiko Nakajima, Jumpei Kondo, Shuji Ishii, Yoshimi Kakiuchi, Tsutomu Nishida, Tatsuya Kanto, Masahiko Tsujii, Shingo Tsuji, Akihiro Kondo, Eiji Miyoshi, Norio Hayashi	IgG oligosaccharide alterations are a novel diagnostic marker for disease activity and the clinical course of inflammatory bowel disease	DDW	San Diego	2008年5月18日
近藤純平, 飯島英樹, 辻晋吾	Crohn病の診断と治療におけるダブルバルーン小腸内視鏡の有用性	JDDW2008(第76回消化器内視鏡学会総会)	東京	2008年10月1日
中島佐知子, 飯島英樹, 林紀夫	ビタミンK欠乏と炎症性腸疾患活動性との関連について	JDDW2008	東京	2008年10月1日
井上隆弘, 飯島英樹, 中島佐知子, 新崎信一郎, 柄川悟志, 山本克己, 西田勉, 筒井秀作, 辻井正彦, 辻晋吾, 林紀夫	クローン病術後に対する小腸内視鏡検査の有用性と問題点	JDDW2008	東京	2008年10月1日
柄川悟志, 飯島英樹, 新崎信一郎, 中島佐知子, 井上隆弘, 近藤純平, 石井修二, 由雄敏之, 西田勉, 垣内佳美, 考藤達哉, 辻井正彦, 辻晋吾, 林紀夫	マウス炎症性腸疾患におけるT細胞の免疫寛容の関与についての検討	第36回日本潰瘍学会総会	札幌	2008年9月5日
Shinzaki S, <u>Iijima H</u> , Nakagawa T, Tsujii M, Kondo A, Miyoshi E, Hayashi N	Alterations in IgG fucosylated oligosaccharides are a novel diagnostic marker for disease activity and the clinical course of inflammatory bowel disease	JHUPU conference 2008	大阪	2008年7月28日
柄川悟志, 飯島英樹, 新崎信一郎, 中島佐知子, 井上隆弘, 林義人, 石井修二, 由雄敏之, 西田勉, 考藤達哉, 辻井正彦, 吉原治正, 林紀夫	潰瘍性大腸炎患者におけるT細胞アナージーの検討	第45回日本消化器免疫学会総会	京都	2008年7月3日

学会発表に関する一覧

新崎信一郎、飯島英樹、林紀夫	炎症性腸疾患における免疫寛容分子GRAILの関与におけるIgG糖鎖構造の変化—血清マーカーとしての可能性	第94回日本消化器病学会総会	福岡	2008年5月8日
井上隆弘、飯島英樹、中島佐知子、新崎信一郎、柄川悟志、山本克己、西田勉、筒井秀作、辻井正彦、辻晋吾、林紀夫	クローン病における悪性腫瘍合併症例の検討	第94回日本消化器病学会総会	福岡	2008年5月8日
柄川悟志、飯島英樹、新崎信一郎、中島佐知子、井上隆弘、近藤純平、石井修二、由雄敏之、西田勉、垣内佳美、考藤達哉、辻井正彦、辻晋吾、林紀夫	マウス炎症性腸疾患におけるT細胞の免疫寛容の関与についての検討	第94回日本消化器病学会総会	福岡	2008年5月8日
飯島英樹、新崎信一郎、中島佐知子、柄川悟志、近藤純平、石井修二、由雄敏之、西田勉、垣内佳美、考藤達哉、辻井正彦、辻晋吾、三善英知、林紀夫	炎症性腸疾患に見られるガラクトース欠損IgGによるマクロファージ機能への影響の解析	第94回日本消化器病学会総会	福岡	2008年5月8日
中島佐知子、飯島英樹、新崎信一郎、柄川悟志、近藤純平、石井修二、垣内佳美、西田勉、辻井正彦、辻晋吾、林紀夫	炎症性腸疾患患者における骨密度および骨代謝マーカーの検討	第94回日本消化器病学会総会	福岡	2008年5月8日
上ノ山直人、山本克己、西田勉、井上隆弘、東谷光庸、小玉尚宏、山北剛史、新崎信一郎、井倉技、飯島英樹、筒井秀作、平松直樹、林紀夫	レミケード投与後に小腸内視鏡下バルーン拡張術を施行しえた小腸型クローン病の一例	第80回日本消化器内視鏡学会近畿地方会	大阪	2008年3月1日
相良志穂、姉崎由美子、飯塚政弘、堀江泰夫、大西洋英	ARDSを合併した重症潰瘍性大腸炎の1例	第94回日本消化器病学会総会	福岡	2008年5月10日
飯塚政弘、相良志穂、堀江泰夫、大西洋英	パネルパネルディスカッション・潰瘍性大腸炎難治例に対する血球生成分岐着除去療法の効果—特に治療効果予測因子と長期予後について—	第184回日本消化器病学会東北支部例会	仙台	2008年2月23日
飯塚政弘、堀江泰夫、相良志穂	ワークショップ3. クローン病高度難治例の今後の問題点—immunomodulatorの使用経験も含めて—	第4回日本消化管学会総会	大阪	2008年2月7日
Uchino M, Takesue Y, Ikeuchi H, Nakano H, Nakamura M, Matsuoka H, Tomita N	Surgical site infection following surgery for inflammatory bowel disease. Result of prospective surveillance	American society of colon & rectal surgeons	Boston	2008年6月8日
池内浩基、内野 基、中村光宏、松岡宏樹、竹末芳生、山村武平、富田尚裕	潰瘍性大腸炎に合併したcolitic cancerに対するFDG-PET検査の有用性の検討	日本臨床外科学会	東京	2008年11月29日
内野 基、池内浩基、平田晃弘、松岡宏樹、大嶋 勉、中村光宏、中野廣樹、竹末芳生、松本誉之、富田尚裕	Colitic cancer手術症例の検討	日本大腸肛門病学会	東京	2008年10月17日
池内浩基、内野 基、富田尚裕	クローン病手術症例からみた今後の治療方針	第50回日本消化器病学会大会	東京	2008年10月3日
池内浩基、中野廣樹、内野 基、中村光宏、松岡宏樹、野田雅史、竹末芳生、富田尚裕	潰瘍性大腸炎手術症例1000例の検討	第63回日本消化器外科学会	札幌	2008年7月17日
Hiroto Hiraga, Yoh Ishiguro, Shogo Kawaguchi, Hirotake Sakuraba, Shinsaku Fukuda	Lack of vitamin a impaired mucosal barrier funtion and exacerbated DSS-induced colitis	The 2nd Japan & US Collaboration Conference in Gastroenterology	InterContinental TOKYO BAY, Tokyo	2009年11月20-21日
Shogo Kawaguchi, Yoh Ishiguro, Tadaatsu Imaizumi, Fumiaki Mori, Tomoh Matsumiya, Hidemi Yoshida, Ken Ota, Hirotake Sakuraba, Kazufumi Yamagata, Yuki Sato, Kunikazu Tanji, Toshihiro Haga, Koichi Wakabayashi, Shinsaku Fukuda, Kei Satoh	Retinoic acid-inducible gene-1 is constitutively expressed and involved in IFN- γ -stimulated CXCL9-11 production in intestinal epithelial cells	The 3rd Korea-Japan IBD symposium	Grand Hilton Seoul Hotel	2008年9月20日
川口章吾、石黒 陽、今泉忠篤	腸管上皮細胞におけるRIG-1の発現調節: PD12 腸管炎症に影響を与える栄養素の吸収代謝	第50回日本消化器病学会大会	グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール	2008年10月3日
山形 和史、石黒 陽、福田 真作	Crohn病における術後計画的influximab投与の治療成績と適応	第50回日本消化器病学会大会	グランドプリンスホテル新高輪	2008年10月1日
川口章吾、石黒 陽、櫻庭 裕丈、山形 和史、佐藤 裕紀、福田真作、今泉忠篤	腸管上皮細胞におけるRIG-1の発現調節: シンボジウム2 消化器疾患における自然免疫・獲得免疫のクロストーク	第45消化器免疫学会	メルパルク京都	2008年7月4日

学会発表に関する一覧

石黒 陽、櫻庭 裕丈、福田 真作	ペーチェット病の臨床像と病態の解析。ワークショップ3「多臓器病変を呈する消化器疾患」	第94回日本消化器病学会大会	福岡国際会議場 メインホール	2008年5月10日
山形 和史、石黒 陽、福田 真作	Crohn病における術後計画的infliximab投与の治療成績と適応	第94回日本消化器病学会大会	福岡国際会議場	2008年5月10日
川口章吾、石黒 陽、櫻庭 裕丈、山形 和史、佐藤 裕紀、福田真作、今泉忠篤	腸管上皮細胞におけるRIG-Iの発現調節	第94回日本消化器病学会大会	福岡国際会議場	2008年5月8日
三島義之、石原俊治、大谷 文、天野祐二、木下芳一	炎症性腸疾患の末梢血CD5陽性B細胞の解析	第5回日本消化管学会	東京	2009年2月12日
大嶋直樹、石原俊治	消化管粘膜におけるIL-10、TGF-beta産生B細胞に関する検討	第50回日本消化器病学会大会	東京	2008年10月3日
三島義之、石原俊治、岡 明彦、大谷文、大嶋直樹、角田 力、森山一郎、天野祐二、木下芳一	消化管粘膜におけるIL-10、TGF-beta産生B細胞に関する検討	第50回日本消化器病学会大会	東京	2008年10月1日
Oshima N, Ishihara S, Rumi MAK, Aziz MM, Mishima Yo, Kadota C, Moriyama I, Ohtani A, Oka A, Li YY, Kadowaki Y, Amano Y, Kinoshita Y	A20 is an early responsive negative regulator of Toll-like receptor signaling in intestinal epithelial cells during inflammation	Digestive Disease Week 2008	San Diego	2008年5月22日
Ishihara S, Aziz M, Rumi MA, Oshima N, Mishima Y, Kadota C, Ohtani A, Oka A, Norihisa I, Moriyama I, Kadowaki Y, Amano Y, Kinoshita Y	Milk fat globule EGF-8 attenuates intestinal inflammation in murine experimental colitis via inhibition of NF- B activation	Digestive Disease Week 2008	San Diego	2008年5月19日
Mishima Y, Ishihara S, Aziz MM, Rumi MAK, Oshima N, Kadota C, Moriyama I, Li YY, Ohtani A, Oka A, Kadowaki Y, Amano Y, Kinoshita Y	Intestinal CD5+ B cells produce IL-10 and TGF-β via Toll-like receptor-mediated signaling	Digestive Disease Week 2008	San Diego	2008年5月18日
Hosomi, S, Oshitani N, Kamata N, Sogawa M, Yamagami H, Watanabe K, Tomiyama K, Watanabe T, Fujiwara Y, Arakara T	Phenotypical and functional study of Ghrelin and its receptor in the pathogenesis of Crohn's disease	Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the AGA Institute	San Diego	2008年5月
鎌田紀子、渡辺憲治、押谷伸英、荒川哲男	シンポジウム2 「消化器疾患における分子標的薬剤を用いた治療戦略」	第89回日本消化器病学会近畿支部例会	大阪	2008年9月
渡辺憲治、山上博一、押谷伸英	シンポジウム3 IBDの診断、治療における内視鏡 S3-6 クロウン病小腸病変に対する小腸内視鏡検査に基づいた診断と治療のstrategy	第75回日本消化器内視鏡学会総会	横浜	2008年5月
渡辺憲治、山上博一、押谷伸英	シンポジウム5 炎症性腸疾患 分子標的療法の新展開。INFLIXIMABによるクロウン病小腸病変の治療戦略	第94回日本消化器病学会総会	福岡	2008年5月
十河光栄、渡辺憲治、押谷伸英	シンポジウム1-2 「新しい技術の開発がもたらした消化器疾患の診断と治療(消化管)」 S1-2-06 潰瘍性大腸炎における自家発行内視鏡(AFI)観察の有用性	第88回日本消化器病学会近畿支部例会	大阪	2008年2月
大塚 亮、板橋道朗、番場嘉子、廣澤知一郎、小川真平、亀岡信悟	潰瘍性大腸炎高齢者手術例の検討	第5回日本炎症性腸疾患研究会	東京	2009年2月7日
板橋道朗、番場嘉子、橋本拓造、廣澤知一郎、小川真平、荒武寿樹、瀬下明良、亀岡信悟	炎症性腸疾患に対する救済手術の工夫と限界	第63回日本大腸肛門病学会総会	東京	2008年10月18日
小川真平、板橋道朗、瀬下明良、荒武寿樹、廣澤知一郎、橋本拓造、番場嘉子、山本壮一郎、大塚 亮、亀岡信悟、飯塚文瑛、藤井茂彦、藤盛孝博	Colitic cancer症例の臨床病理学的検討	第63回日本大腸肛門病学会総会	東京	2008年10月17日
板橋道朗、番場嘉子、橋本拓造、廣澤知一郎、小川真平、荒武寿樹、瀬下明良、亀岡信悟	病態を考慮した潰瘍性大腸炎の手術適応と術式選択	第63回日本大腸肛門病学会総会	東京	2008年10月17日
荒木俊光、三木賢雄、吉山繁幸、大北喜基、藤川裕之、安田裕美、内田恵一、井上幹大、大竹耕平、植正人	潰瘍性大腸炎に対する手術時期と術後成績・QOLの関連	第5回日本消化管学会総会学術集会	東京	2009年2月13日
吉山繁幸、三木賢雄、荒木俊光、安田裕美、藤川裕之、大北喜基、植正人	クローン病腸管病変に対する手術タイミングと術後合併症の関係	第5回日本消化管学会総会学術集会	東京	2009年2月12日

学会発表に関する一覧

楠正人	Infection Control Doctorの役割の現在そして未来 臨床の場でどう貢献し、何を成すべきか ICDの推奨する手術部位感染対策	第21回日本外科感染症学会総会	札幌	2008年11月7日
大北喜基, 小林美奈子, 毛利靖彦, 三木賢雄, 楠正人	術後腹腔内膿瘍に対する経皮的ドレナージの有効性の検討	第21回日本外科感染症学会総会	札幌	2008年11月6日
大北喜基, 三木賢雄, 吉山繁幸, 小林美奈子, 荒木俊光, 毛利靖彦, 楠正人	大腸手術術後管理における新たな展開 潰瘍性大腸炎患者の術後における免疫学的問題点	第63回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2008年10月18日
荒木俊光, 三木賢雄, 吉山繁幸, 大北喜基, 安田裕美, 大竹耕平, 井上幹大, 内田恵一, 楠正人	炎症性腸疾患の病態に適した治療法の選択とその成績 クロウン病腸管病変術後インフリキシマブ投与が再手術に与える影響	第63回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2008年10月17日
楠正人	外科領域を中心とする大腸肛門病専門医制度と専門医教育のあり方	第63回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2008年10月17日
荒木俊光, 三木賢雄, 楠正人	クローン病の手術適応と再燃をめぐって クロウン病術後infliximabの再手術抑制効果 手術適応部位別の検討	第38回日本消化気管学会総会 JDDW 2008	東京	2008年10月3日
大北喜基, 吉山繁幸, 荒木俊光, 三木賢雄, 楠正人	消化器外科領域における侵襲と生体防御機構 潰瘍性大腸炎患者の術後における免疫学的問題点	第63回日本消化器外科学会総会	札幌	2008年7月17日
荒木俊光, 三木賢雄, 吉山繁幸, 大北喜基, 安田裕美, 内田恵一, 井上幹大, 大竹耕平, 楠正人	潰瘍性大腸炎に対する回腸盲腸吻合術の現状と意義	第63回日本消化器外科学会総会	札幌	2008年7月17日
井上幹大, 内田恵一, 小池勇樹, 大竹耕平, 大北喜基, 吉山繁幸, 荒木俊光, 三木賢雄, 楠正人	QOLを考慮した乳児期発症クローン病症例の手術適応	第108回日本外科学会定期学術集会	長崎	2008年5月17日
荒木俊光, 三木賢雄, 吉山繁幸, 大北喜基, 内田恵一, 井上幹大, 大竹耕平, 楠正人	炎症性腸疾患における外科手術のタイミング 潰瘍性大腸炎に対する手術適応と問題点の検討	第108回日本外科学会定期学術集会	長崎	2008年5月15日
吉山繁幸, 三木賢雄, 大北喜基, 荒木俊光, 楠正人	潰瘍性大腸炎手術患者術後morbidity改善のための術後好中球分離培養による免疫能の解析及びその臨床応用	第94回日本消化器病学会	福岡	2008年5月9日
荒木俊光, 三木賢雄, 楠正人	クローン病の長期予後: 本邦のエビデンスを求めて クロウン病術後緩慢性維持療法としてのinfliximab	第94回日本消化器病学会	福岡	2008年5月8日
城 卓志, 谷田論史, 片岡洋望, 佐々木誠人, 小笠原尚高, 神谷 武	IL-8が誘導する新しいEGFシグナルと大腸癌	第67回日本癌学会学術総会	名古屋	2008年10月29日
佐々木誠人, 水島隆史, 城 卓志	オリゴ糖生成酵素を用いた炎症性腸疾患予防の試み	JDDW2008	東京	2008年10月3日
谷田論史, 佐々木誠人, 片岡洋望, 小笠原尚高, 久保田英嗣, 和田恒哉, 志村貴也, 溝下 勤, 村上賢治, 平田慶和, 水島隆史, 海老正秀, 馬淵元志, 田中 守, 神谷 武, 城 卓志	炎症性サイトカインによるEGF受容体リガンドC末端を介した細胞増殖機序	第45回日本消化器免疫学会総会	京都	2008年7月4日
佐々木誠人, 城 卓志	eNOS遺伝子多型(-786T>C)は潰瘍性大腸炎の予後予因子である	第61回日本酸化ストレス学会学術集会	京都	2008年6月20日
石毛 崇・友政 剛・鈴木 僚子・羽島 麗子・荒川 浩一・朝倉 敬子・武林 亨	乳児期発症炎症性腸疾患患者の臨床的特徴-特定疾患臨床調査個人票データの解析	日本小児栄養消化器肝臓学会	東京	2008年10月11-12日
Tatsushi Omatsu, Yuji Naito, Tomohisa Takagi, Katsura Mizushima, Hitomi Okada, Ikuhiro Hirata, Tetsuya Okayama, Osamu Handa, Satoshi Kokura, Hiroshi Ichikawa, Toshikazu Yoshikawa	The expression of Peroxiredoxin-VI in the colonic mucosa in the patients with active Ulcerative Colitis	Japan-Korea IBD Symposium	Seoul, Korea	2008年9月20日
Dohi T	TNF superfamily molecules as next therapeutic targets for inflammatory bowel diseases	10th Symposium of Korean Association for the Study of Intestinal Diseases, Invited lecture	Seoul,	2008年12月13日
Dohi T	Dose-dependent differential regulation of cytokine secretion from macrophages by fractalkine,	13th. US-Japan GI & Liver Meeting in 21st Century	Tokyo	2008年6月13日
Kawashima R, Kawamura YI, Mizutani N, Toyama-Sorimachi N, Dohi T	Interleukin-13 Induces Tissue Damage with Relocation of β -Catenin and Modification of Cell-Cell Adhesion in the Epithelial Cells	Digestive Disease Week 2008	San Diego	2008年5月20日

学会発表に関する一覧

Kawamura YI, Toyota M, Kawashima R, Hagiwara T, Kawamura Y, <u>Dohi T</u>	DNA Hypermethylation Causes Cancer-Associated Changes of Carbohydrate Determinants By Silencing 'Glyco-Genes' in Gastrointestinal Cancer	Digestive Disease Week 2008	San Diego	2008年5月20日
<u>Dohi T</u> , Borodovsky A, Kawashima R, Wu P, Kawamura YI, Burkly LC	Tweak/Fn14 Pathway: Role in the Intestinal Inflammation and Tissue Repair	Digestive Disease Week 2008	San Diego	2008年5月18日
Y I. Kawamura, M Toyota, R Kawashima, T Hagiwara, YJ. Kawamura, F Konishi, Y Saito, R Kannagi, K Imai, <u>Dohi T</u>	Inflammation-associated transcriptional silencing of Sda carbohydrate-synthase gene by DNA hypermethylation in ulcerative colitis	Biochemistry and Molecular Biology (BMB) 2008	神戸	2008年12月11日
Kawashima R, Kawamura IK, Toayama-Sorimachi N, <u>Dohi T</u>	IL-13 disrupts tight junction in the intestinal epithelial cells by modulating expression of ZO-1, occludin and claudin-2	第38回日本免疫学会学術集会	京都	2008年12月2日
Vongsavanh P, Y I. Kawamura, R Kawashima, and <u>Dohi T</u>	Comprehensive analysis of lectin-binding in the colitis and colitis-associated tumors in mice	第67回日本癌学会学術総会	名古屋	2008年10月28日
Y I. Kawamura, M Toyota, R Kawashima, Y J. Kawamura, F Konishi, Y Saito, T Yajima, T Hibi, T Matsumoto, R Kannagi, K Imai, and <u>Dohi T</u>	Transcriptional silencing of Sda carbohydrate-synthase gene by hypermethylation in ulcerative colitis and colitic cancer	第67回日本癌学会学術総会	名古屋	2008年10月29日
土肥多恵子, 河村由紀, 豊田 実	消化管癌における糖鎖関連遺伝子のDNAメチル化によるサイレンシング	JDDW2008	東京	2008年10月1日
河村由紀, 豊田 実, 川島 麗, 萩原輝記, 鈴木 拓, 篠村 恭久, 時野隆至, 今井浩三, 土肥多恵子	DNAメチル化異常により引き起こされる消化管の癌性糖鎖不全現象	日本分子臨床医学会	神戸	2008年7月23日
土肥多恵子	消化管病変における糖鎖発現の意義とそのエビデネティックな制御機構	第12回GI Cell Biology研究会	東京	2008年6月19日
竹内健, 飯田貴之, 石丸啓, 阿部仁郎, 渡辺文利, 花井洋行	CT colonographyによる潰瘍性大腸炎の重症度評価	第5回日本消化管学会総会学術集会	京王プラザホテル	2009年2月12日
竹内健, 飯田貴之, 花井洋行	大腸内視鏡検査とCT colonographyを併用した炎症性腸疾患の診断	第51回日本消化器内視鏡学会東海地方会	名古屋中小企業振興会館(吹上ホール)	2008年12月13日
竹内健, 飯田貴之, 花井洋行	大腸がんスクリーニングにおけるCT colonographyの有用性-fecal tagging法とコンピューター読影支援システムの検討	JDDW2008第76回日本消化器内視鏡学会総会	グランドプリンス新高輪	2008年10月4日
竹内健, 飯田貴之, 石丸啓, 阿部仁郎, 渡辺文利, 花井洋行	CT colonographyがクローン病大腸狭窄性病変の内視鏡的拡張術の評価に有効だった一例	日本消化器病学会東海支部 第108回例会	岐阜 長良川国際会議場	2008年6月28日
竹内健, 飯田貴之, 石丸啓, 阿部仁郎, 渡辺文利, 金子栄蔵, 花井洋行	潰瘍性大腸炎診断におけるCT colonographyの有用性についての検討	第94回日本消化器病学会総会	福岡国際会議場, 福岡サンパレスホテル&ホール, マリンメッセ福岡	2008年5月9日
中川正, 藤井久男, 小山文一, 内本和晃, 大槻憲一, 中村信治, 中島祥介	潰瘍性大腸炎手術適応例における直腸潰瘍の管理	第63回日本消化器外科学会総会	札幌	2008年7月17日
中村信治, 庄雅之, 小山文一, 野見武男, 赤堀宇広, 中川正, 内本和晃, 大槻憲一, 藤井久男, 中島祥介	炎症性腸疾患に対するエリスロポエチンによる新規治療戦略の可能性	第63回日本消化器外科学会総会	札幌	2008年7月16日
中村信治, 庄雅之, 小山文一, 野見武男, 赤堀宇広, 榎本浩士, 向川智英, 中川正, 内本和晃, 大槻憲一, 藤井久男, 中島祥介	炎症性腸疾患に対するエリスロポエチンによる新たな治療の可能性とその機序	第108回日本外科学会定期学術集会	長崎	2008年5月15日
中川正, 藤井久男, 小山文一, 向川智英, 内本和晃, 大槻憲一, 中村信治, 中島祥介	直腸潰瘍に広範な潰瘍を形成した潰瘍性大腸炎4症例の検討	第94回日本消化器病学会総会	福岡	2008年5月10日
東大二郎, 二見喜太郎, 河原一雅, 三上公治, 紙谷孝則, 永川祐二, 富安孝成, 石橋由紀子, 張村貴紀, 佐藤啓介, 前川隆文	クローン病肛門病変の外科治療と画像診断	第70回日本臨床外科学会総会	ホテルニューオータニ	2008年11月27-29日
東大二郎, 二見喜太郎, 永川祐二, 平野憲二, 富安孝成, 石橋由紀子, 下村保, 黒木博介, 前川隆文	Colitic cancerの診断と外科治療	第63回日本大腸肛門病学会学術集会	ホテル日航東京	2008年10月17-18日

学会発表に関する一覧

二見喜太郎, 河原一雅, 東大二郎, 三上公治, 永川祐二, 平野憲二, 石橋由紀子, 三上隆一, 成富一哉, 黒木博介, 前川隆文	Crohn病術後長期経過の検討	第63回日本大腸肛門病学会学術集会	ホテル日航東京	2008年10月17・18日
竹田津英穂, 光山慶二, 山崎 博, 増田淳也, 桑木光太郎, Kathrin S. Michelsen, Stephan R. Targan, 佐田通夫	炎症性腸疾患におけるTLIA(TNFSF15)の役割	第6回北部九州消化管リサーチカンファレンス	福岡	2009年1月10日
Satoshi Matsumoto, Mayuko Yamamoto, Keiichi Mitsuyama, Stefan Rose-John	IL6トランスシグナリングを介した大腸発癌過程における粘膜マクロファージの重要性	第38回日本免疫学会総会・学術集会	京都	2008年12月1日
城野智毅, 桑木光太郎, 光山慶二, 竹田津英穂, 増田淳也, 山崎 博, 河野弘志, 鶴田 修, 佐田通夫	皮膚筋炎の経過観察中に発症した潰瘍性大腸炎の一例	第92回日本消化器病学会九州支部例会, 第86回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	大分	2008年11月22日
小篠洋之, 荒木靖三, 野明俊裕, 藤勇二, 中川元典, 岩谷泰江, 高野正博, 光山慶二	当院におけるCrohn病術後の計画的Infliximab治療の導入	第92回日本消化器病学会九州支部例会, 第86回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	大分	2008年11月21日
小篠洋之, 岩谷泰江, 中川元典, 藤勇二, 永江隆明, 野明俊裕, 荒木靖三, 高野正博, 白水和雄, 光山慶二	当院における急性腸炎の現状	第63回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2008年10月17日
荒木靖三, 野明俊裕, 永江隆明, 藤勇二, 中川元典, 岩谷泰江, 小篠洋之, 高野正博, 光山慶二	当院におけるCrohn病術後の計画的Infliximab治療導入	第63回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2008年10月17日
松本 敏, 光山慶二, 山本真悠子	Colitis-associated cancer発症過程におけるIL6トランスシグナリングの重要性と粘膜マクロファージ	JDDW (第50回日本消化器病学会大会)	東京	2008年10月1日
有田桂子, 鶴田 修, 河野弘志, 桑木光太郎, 白玉睦人, 竹田津英穂, 伊藤実, 居石哲治, 光山慶二, 佐田通夫	大動脈炎症候群患者に発症したNSAIDs腸炎の1例	第6回九州消化管疾患治療研究会	福岡	2008年8月30日
久米村寛大, 富安信夫, 坂田研二, 吉田 光, 長田修一郎, 増田淳也, 野口和典, 光山慶二, 鶴田 修, 佐田通夫	胃病変を合併した潰瘍性大腸炎に回盲部巨大ポリープを発症した1例	第282回日本内科学会九州地方会	沖縄	2008年8月23日
小篠洋之, 岩谷泰江, 中川元典, 藤勇二, 永江隆明, 野明俊裕, 荒木靖三, 高野正博, 光山慶二, 佐田通夫	潰瘍性大腸炎術後の活動期回腸囊炎に対する白血球除去療法	第3回九州消化器GCAP療法研究会	福岡	2008年6月7日
山本真悠子, 光山慶二, 松本 敏	L. caseiシロタ株の抗炎症作用を利用したマウスcolitis-associated-cancer抑制効果の解析	第94回日本消化器病学会総会	福岡	2008年5月9日
下立雄一, 渡邊秀平, 本谷 聡	潰瘍性大腸炎：外科治療のタイミング。潰瘍性大腸炎術後回腸囊炎発症例の術前腸管活動性とその長期予後の関係	第5回消化管学会総会	京王プラザホテル	2009年2月13日
渡邊秀平, 下立雄一, 本谷 聡	クローン病：内科外科の治療ストラテジー。Infliximab計画的維持投与における免疫抑制剤併用の効果	第5回消化管学会総会	京王プラザホテル	2009年2月12日
本谷 聡	「今注目されるアフェレーシス療法」ステロイドホルモンに過度に依存しない新しい潰瘍性大腸炎の治療戦略	第29回日本アフェレーシス学会学術大会	広島国際会議場	2008年11月23日
本谷 聡, 田中浩紀, 益子博幸	「クローン病の手術適応と再燃をめぐって」抗TNF- α 抗体 (Infliximab) によるクローン病腸管手術後の緩解維持効果：非再入院率・非再手術率からの検討	第50回消化器病学会大会 (JDDW2008)	グランドプリンスホテル新高輪	2008年10月3日
下立雄一, 那須野正尚, 本谷 聡	「IBD診療における内視鏡の役割」5ASAに対するDLST陽性潰瘍性大腸炎の臨床病理学検討	第76回消化器内視鏡学会総会 (JDDW2008)	グランドプリンスホテル新高輪	2008年10月2日
本谷 聡	クローン病の再燃を断ち切る「インフリキシマブ維持治療がもたらしたクローン病治療の変遷	第94回日本消化器病学会総会	福岡国際会議場	2008年5月10日

学会発表に関する一覧

本谷 聡、那須野正尚、今村哲理	「クローン病の長期予後：本邦のエビデンスを求めて」クローン病に対するInfliximab Top-down治療による長期成績：Top-down治療開始時期、病型の相違を含めて-	第94日本消化器病学会総会	福岡国際会議場	2008年5月9日
那須野正尚、本谷 聡、今村哲理	「炎症性腸疾患：分子標的治療の新展開」難治性潰瘍性大腸炎に対する抗TNF- α 抗体（Infliximab）の緩解導入と維持投与による長期成績	第94日本消化器病学会総会	福岡国際会議場	2008年5月8日

V. 社会活動報告

社会活動に関する一覧

活動者名 (所属施設)	会の名称および講演演題等	会場および新聞名等	活動年月日
渡辺 守 (東京医科歯科大学)	厚生労働科学研究 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班 「一般向け研究成果発表会」第5回市民公開講座 炎症性腸疾患の治療をめぐる	慶應義塾大学・北里講堂	2009年2月8日
渡辺 守 (東京医科歯科大学)	厚生労働科学研究 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班 研究成果発表会 「一般臨床医がおこなう炎症性腸疾患の初期診療と標準治療」	北海道医師会館会議室	2009年1月25日
渡辺 守 (東京医科歯科大学)	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」第4回市民公開講座	メルパルク京都	2009年1月21日
渡辺 守 (東京医科歯科大学)	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」第3回市民公開講座	九州大学 百年講堂 大ホール	2008年10月12日
渡辺 守 (東京医科歯科大学)	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」第2回市民公開講座 一炎症性腸疾患の治療をめぐる一IBD診療の進歩と近未来像一 治る時代へ	兵庫医科大学平成記念会館	2008年5月31日
渡辺 守 (東京医科歯科大学)	NHK きょうの健康「クローン病 治療の最新事情」	NHK	2008年5月15日
瀬戸山仁、坪内博仁 (鹿児島大学大学院消化器疾患・生活習慣病学)	鹿児島GUTS学びの会	鹿児島	2008年11月29日
今井浩三 (札幌医科大学)	健康医療開発機構講演会「日本のアカデミアにおけるTRの推進を考える」	東京・トヨタ会館	2008年12月9日
今井浩三 (札幌医科大学)	日本DDS学会シンポジウム講演「抗体医薬はどこまで来たか」	アルカディア市谷	2008年11月5日
有村佳昭、今井浩三 (札幌医科大学)	青森胃腸同好会、大腸がん・IBD 一われわれの視点&取り組み	青森市医師会館	2008年9月12日
今井浩三 (札幌医科大学)	秋山財団賞受賞記念講演「癌の分子解析と橋渡し研究」	札幌プリンスホテル	2008年9月11日
上野文昭 (大船中央病院)	ガイドライン解説 (潰瘍性大腸炎) . 日本医療機能評価機構第7回EBM研究フォーラム	日本医師会会館	2009年2月7日
小林健二 (大船中央病院)	炎症性腸疾患の診断・治療と国内・海外の現状. 鎌倉地区炎症性腸疾患 (IBD) 勉強会	鶴ヶ丘会館	2008年10月23日
松井敏幸 (福岡大学筑紫病院)	TVホムドクター なるほど健康「炎症性腸疾患 目覚ましい治療の進歩」	TNC テレビ西日本	2009年3月6日
松井敏幸 (福岡大学筑紫病院)	クローン病小腸病変の診断と治療	第26回北海道クローン病検討会	2008年11月7日
松井敏幸 (福岡大学筑紫病院)	第3回市民公開講座 炎症性腸疾患の治療をめぐる	九州大学医学部 百年講堂 大ホール	2008年10月12日
松井敏幸 (福岡大学筑紫病院)	「とっても健康ランド第515回 未知なる暗闇を照らせ!!カプセル内視鏡」	KBCテレビ	2008年9月20日
松井敏幸、平井郁仁 (福岡大学筑紫病院)	クローン病の長期経過-15年以上の経過観察例を中心に-	第55回炎症性腸疾患研究会	2008年7月18日
日比紀文 (慶應大消化器内科)	第5回日本炎症性腸疾患研究会 市民公開講座	慶應義塾大学病院北里講堂	2009年2月8日
蘆田知史、高後 裕 (旭川医科大学)	研究成果報告会「炎症性腸疾患診療の最新動向と一般臨床医の関わり」	札幌市北海道医師会館(札幌)	2009年1月21日
Eugene B. Chang, 高後 裕 (旭川医科大学)	2nd Asahikawa-Chicago GI joint meeting. 「特別講演: Hitchhiker's guide to the enteric microflora」	札幌徳州会病院(札幌)	2008年11月17日

社会活動に関する一覧

岡本耕太郎、高後 裕 (旭川医科大学)	腸寿会(患者会)講演会「炎症性腸疾患ー最近の話題」	旭川医科大学	2008年8月2日
鈴木康夫 (東邦大学医療センター佐倉病院)	炎症性腸疾患に関する医療面、生活面についての相談指導	千葉市	2009年2月17日
鈴木康夫 (東邦大学医療センター佐倉病院)	炎症性腸疾患に関する医療面、生活面についての相談指導	小見川市	2009年2月10日
鈴木康夫 (東邦大学医療センター佐倉病院)	市民公開講座「トイレ(排尿排便)で困っていませんか」	千葉市	2009年2月8日
鈴木康夫 (東邦大学医療センター佐倉病院)	炎症性腸疾患最新医療情報講演会	鴨川市	2008年12月17日
鈴木康夫 (東邦大学医療センター佐倉病院)	クローン病に関する最新医療情報講演会	千葉市	2008年12月16日
鈴木康夫 (東邦大学医療センター佐倉病院)	炎症性腸疾患に関する医療面、生活面についての相談指導	千葉市	2008年11月18日
鈴木康夫 (東邦大学医療センター佐倉病院)	抗TNF- α 薬適応広がる関節リウマチやクローン病治療	日本経済新聞(夕刊)	2008年10月21日
鈴木康夫 (東邦大学医療センター佐倉病院)	炎症性腸疾患に関する医療面、生活面についての相談指導	千葉市	2008年6月17日
中村志郎 (兵庫医科大学)	潰瘍性大腸炎、クローン病への取り組みーこんなふうには治療していますー小児炎症性腸疾患市民公開講座	大阪医科大学	2008年11月1日
中村志郎 (兵庫医科大学)	第2回「医療・生活」相談会(西宮市難病団体連絡協議会) 潰瘍性大腸炎・クローン病	西宮市中央公民館	2008年8月31日
松本譽之 (兵庫医科大学)	がんをよく知るための講座(財)兵庫県予防医学協会・神戸新聞社共催) 大腸がんについて	健康ライフプラザ(神戸市)	2008年7月22日
樋田信幸 (兵庫医科大学)	第49回「医療・生活・教育」相談会(神戸市難病団体連絡協議会) 潰瘍性大腸炎・クローン病	神戸市青少年会館	2008年6月29日
樋田信幸 (兵庫医科大学)	第2回厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服事業市民公開講座 Q&Aコーナー	兵庫医科大学	2008年5月31日
松本譽之 (兵庫医科大学)	第2回厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服事業市民公開講座 当番世話人	兵庫医科大学	2008年5月31日
中村志郎 (兵庫医科大学)	第2回厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服事業市民公開講座 炎症性腸疾患(IBD)の基礎知識	兵庫医科大学	2008年5月31日
飯島英樹 (大阪大学消化器内科)	大阪難病講演会	アビオ大阪(大阪)	2008年10月26日
飯島英樹 (大阪大学消化器内科)	第2回IBDの子どもと歩む会	ハートンホール(大阪)	2008年9月6日
飯塚政弘 (秋田赤十字病院附属あきた健康管理センター)	難病無料検診と相談会参加	湯沢雄勝広域交流センター	2008年11月24日
飯塚政弘 (秋田赤十字病院附属あきた健康管理センター)	第3回秋田炎症性腸疾患市民公開講座	秋田市遊学舎	2008年3月15日
池内浩基 (兵庫医科大学外科)	IBD eminar 「クローン病の外科治療ーレミケード使用と手術適応ー」	ホテル日航倉敷	2008年12月4日
池内浩基 (兵庫医科大学外科)	クローン病市民公開講座 「クローン病の手術って必要？」	西宮市大学交流センター	2008年9月28日
池内浩基 (兵庫医科大学外科)	北海道IBDセミナー「外科からみた潰瘍性大腸炎、クローン病の手術適応」	北海道消化器科病院	2008年9月26日
池内浩基 (兵庫医科大学外科)	伊丹市医師会内科医会 第5回「消化器勉強会」 「炎症性腸疾患の外科治療ーこれまでの問題点と今後の課題ー」	伊丹シティホテル	2008年7月10日
池内浩基 (兵庫医科大学外科)	北摂エリア腸疾患勉強会 「炎症性腸疾患の手術適応ーこんな時はやっぱり手術です。ー」	済生会吹田病院	2008年4月19日
池内浩基 (兵庫医科大学外科)	第12回山形県炎症性腸疾患研究会 「炎症性腸疾患の外科治療およびそのフォローアップ」	オーヌマホテル	2008年3月1日

社会活動に関する一覧

池内浩基 (兵庫医科大学外科)	第3回炎症性腸疾患市民公開講座、「炎症性腸疾患長期経過例の問題点—発癌と人工肛門—」	エスポワールいわて	2008年1月26日
石原俊治 (島根大学医学部消化器内科)	難病相談 (炎症性腸疾患)	県央保健所 (大田市)	2008年12月4日
石原俊治 (島根大学医学部消化器内科)	「炎症性腸疾患の診断と治療 ～過敏性腸症候群の病態との関連をふまえて～」	ホテル一畑 (松江市)	2008年11月26日
石原俊治 (島根大学医学部消化器内科)	炎症性腸疾患患者・家族のつどい 難病相談	雲南保健所	2008年11月6日
石原俊治 (島根大学医学部消化器内科)	難病学習会および交流会 講演、難病相談「炎症性腸疾患の最近の話題」	松江保健所	2008年10月23日
石原俊治 (島根大学医学部消化器内科)	益田医師会学術講演会 講演 「炎症性腸疾患の現状」	益田地域医療センター医師会病院	2008年10月10日
石原俊治 (島根大学医学部消化器内科)	炎症性腸疾患家族の会 講演「炎症性腸疾患の最新検査・健康管理について」	浜田保健所	2008年9月4日
石原俊治 (島根大学医学部消化器内科)	難病相談 (炎症性腸疾患)	益田保健所	2008年8月21日
板橋道朗、亀岡信悟 (東京女子医科大学)	CCFJ栄養サポート講座③	東京	2009年2月14日
板橋道朗、亀岡信悟 (東京女子医科大学)	CCFJ栄養サポート講座②	東京	2009年1月11日
板橋道朗、亀岡信悟 (東京女子医科大学)	CCFJ栄養サポート講座①	東京	2008年12月14日
押谷伸英 (大阪市立大学)	クローン病-増える腸の現代病-その病態と治療	堺市保健医療センター	2008年4月26日
楠正人 (三重大学消化管小児外科)	第16回 岐阜大腸疾患研究会「J pouch」	岐阜グランドホテル	2008年11月13日
楠正人 (三重大学消化管小児外科)	第63 回日本大腸肛門病学会学術集会ランチョンセミナー「Stapling anastomosis」	ホテル日航東京	2008年10月17日
藤井久男 (奈良県立医科大学)	医療相談会	奈良県難病支援センター	2008年12月11日
藤井久男 (奈良県立医科大学)	医療相談会	奈良県難病支援センター	2008年8月28日
二見喜太郎 (福岡大学筑紫病院)	IBDに対するInfliximab治療の現状と問題点【第80回九州大腸肛門病懇話会】	久留米市久留米リサーチパーク「研修室C」	2009年1月24日
二見喜太郎 (福岡大学筑紫病院)	クローン病における外科治療の実際と今後の課題 - 肛門病変と術後再発に対するインフリキシマブの治療効果 - 【Infliximab meeting】	青森市 アップルパレス2階「マリアージュ」	2008年10月11日
二見喜太郎 (福岡大学筑紫病院)	IBDの術後長期経過【第7回IBDフォーラム】	神戸市 生田神社社会館3階「梅の間」	2008年9月25日
二見喜太郎 (福岡大学筑紫病院)	炎症性腸疾患の外科治療 - 手術適応～術後経過 - 【第54回鳥取県東部医師会医学セミナー】	鳥取市 東部医師会館	2008年8月23日
二見喜太郎 (福岡大学筑紫病院)	クローン病における外科治療の実際と今後の課題【第2回NINJA (The North group district IBD New treatment Juior Academy)】	四日市市 都ホテル3階「明朝の間」	2008年7月11日
二見喜太郎 (福岡大学筑紫病院)	IBD-手術のタイミングを考える【第21回大阪病態治療研究会】	大阪市 ホテルグランヴィア大阪20階	2008年6月5日
光山慶二 (久留米大学)	難病患者医療相談事業 講演会 「炎症性腸疾患の理解・最新治療について」	福岡県八女総合庁舎	2008年11月13日
光山慶二 (久留米大学)	くるめIBD友の会「炎症性腸潰瘍の理解と治療」	特定医療法人社団 高野会 大腸肛門病センター くるめ病院	2008年10月25日
光山慶二 (久留米大学)	炎症性腸疾患患者・家族の集い「炎症性腸疾患の理解と治療について」	福岡県久留米市役所	2008年10月21日
光山慶二 (久留米大学)	第5回長崎腸疾患研究会「炎症性腸疾患の病態に基づく治療法」	ベストウェスタンプレミア ホテル長崎	2008年10月17日
本谷 聡 (札幌厚生病院)	厚生労働科学研究 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班 研究成果発表会：一般臨床医が行う炎症性腸疾患の初期診療と標準治療「クローン病の標準治療」	北海道医師会館	2009年1月25日